

Durvalumab 維持療法（胆道癌）

対象疾患	胆道癌
投与間隔	4週1コース

催吐リスク	最小度(催吐性)リスク
-------	-------------

○レジメン内容(※制吐薬(下記参照)等の内服薬が処方される事があります。)

番号	抗癌剤	薬品名・規格	投与量	手技	投与ルート	点滴時間・速度	投与日								
							1	28		
RP.1		生理食塩液	100mL	点滴静注	メイン	30分	○								
RP.2	○	生理食塩液	100mL	点滴静注	メイン	60分	○								
		イミフィンジ	1500mg/body (30kg以下: 20mg/kg)	インラインフィルター使用											
RP.3		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	全開	○								

<参考>最小度催吐性リスクに対応する標準的制吐療法

最小度催吐性リスクの注射抗がん薬に対する制吐療法					
	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
	抗がん薬投与前				
	通常予防的な制吐療法は推奨されない。				

- 制吐療法の一般的な全体像を示したものであるが、個々の症例に応じた柔軟な対応が望まれる。
- 各薬剤の推奨用量をダイアグラム内に数値で示した。

GC+Durvalumab療法







対象疾患	胆道癌
投与間隔	3週1コース

催吐リスク	高度(催吐性)リスク
-------	------------

○レジメン内容(※制吐薬(下記参照)等の内服薬が処方される事があります。)

番号	抗癌剤	薬品名・規格	投与量	手技	投与ルート	点滴時間・速度	投与日													
							1	8	15	21				
RP.1		ソリアセトF	500mL	点滴静注	メイン	60分	○				○									
RP.2		ソリアセトF	500mL	点滴静注	メイン	120分	○				○									
RP.3		ソルデム3A	500mL	点滴静注	メイン	60分	○				○									
RP.4		生理食塩液	100mL	点滴静注	側管	30分	○				○									
		パロノセトロン	0.75mg																	
		デキサート	6.6mg																	
RP.5	○	イミフィンジ	1500mg/body (30kg以下: 20mg/kg)	点滴静注	側管	60分	○													
				インラインフィルター使用																
RP.6	○	シスプラチン	25mg/m ²	点滴静注	側管	120分	○				○									
RP.7		生理食塩液	50mL	点滴静注	側管	全開	○				○									
RP.8	○	5%ブドウ糖液	100mL	点滴静注	側管	30分	○				○									
		ゲムシタビン	1000mg/m ²																	
RP.9		生理食塩液	50mL	点滴静注	側管	全開	○				○									

<参考>高度催吐性リスクに対応する標準的制吐療法

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
	抗がん薬投与前				
アプレピタント (イメドカプセル等)	125mg	80mg	80mg		
5-HT3受容体拮抗薬 (グラニセトロン塩酸塩注射等)					
デキサメタゾン (デカドロン注射液等) (デキサメタゾン錠等)	 (9.9mg)				

- 制吐療法の一般的な全体像を示したものであるが、個々の症例に応じた柔軟な対応が望まれる。
- 各薬剤の推奨用量をダイアグラム内に数値で示した。

Nanoliposomal CPT-11+5-FU/LV療法






対象疾患	膵癌
投与間隔	2週1コース

催吐リスク	中等度(催吐性)リスク
-------	-------------

○レジメン内容(※制吐薬(下記参照)等の内服薬が処方される事があります。)

番号	抗癌剤	薬品名・規格	投与量	手技	投与ルート	点滴時間・速度	投与日													
							1	2	3	4	...	14								
RP.1		生理食塩液	100mL	中心静脈	メイン	30分	○													
		パロノセトロン	0.75mg	インラインフィルター付きルート																
		デキサート	9.9mg	使用不可																
RP.2	○	生理食塩液	500mL	中心静脈	メイン	90分	○													
		オニバイド (UGT1A1変異型)	70mg/m ² 50mg/m ²																	
RP.3	○	生理食塩液	250mL	中心静脈	メイン	120分	○													
		レボホリナート	200mg/m ²																	
RP.4	○	生理食塩液	100mL	中心静脈		指定なし	○													
		フルオロウラシル	2400mg/m ²	インフューザーポンプ使用																

<参考>中等度催吐性リスクに対応する標準的制吐療法

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
抗がん薬投与前					
5-HT3受容体拮抗薬 (グラネセトロン塩酸塩注射液等)					
デキサメタゾン (デカドロン注射液等) (デキサメタゾン錠等)	 (9.9mg)	 8	 8	 8	

●制吐療法の一般的な全体像を示したものであるが、個々の症例に応じた柔軟な対応が望まれる。

●各薬剤の推奨用量をダイアグラム内に数値で示した。

※オキサリプラチン、イホスファミド、イリノテカン、メトトレキサートなど使用時はアプレピタント(イメンドカプセル等)の使用を考慮する。

S-1+GEM


対象疾患	膵癌
投与間隔	3週1コース

催吐リスク	軽度(催吐性)リスク
-------	------------

○レジメン内容(※制吐薬(下記参照)等の内服薬が処方される事があります。)

番号	抗癌剤	薬品名・規格	投与量	手技	投与ルート	点滴時間・速度	投与日								
							1	...	8	...	14	...	21		
RP.1		生理食塩液	100mL	点滴静注	メイン	30分	○		○						
		デキサート	6.6mg												
RP.2	○	5%ブドウ糖液	100mL	点滴静注	メイン	30分	○		○						
		ゲムシタピン	800mg/m ²												
RP.3		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	全開	○		○						
内服	○内服	エスワン		経口		1日2回	○	←	→	○	←	→			
				1.25㎡未満:40mg/回、1.25~1.50㎡:50mg/回、1.50㎡以上:60mg/回											

<参考>軽度催吐性リスクに対応する標準的制吐療法

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
	抗がん薬投与前				
デキサメタゾン (デカドロン注射液等)	 (6.6mg)				

- 制吐療法の一般的な全体像を示したものであるが、個々の症例に応じた柔軟な対応が望まれる。
- 各薬剤の推奨用量をダイアグラム内に数値で示した。

GEM triweekly


対象疾患	膀胱癌
投与間隔	3週1コース

催吐リスク	軽度(催吐性)リスク
-------	------------

○レジメン内容(※制吐薬(下記参照)等の内服薬が処方される事があります。)

番号	抗癌剤	薬品名・規格	投与量	手技	投与ルート	点滴時間・速度	投与日							
							1	...	8	...	21			
RP.1		生理食塩液	100mL	点滴静注	メイン	30分	○		○					
		デキサート	6.6mg											
RP.2	○	5%ブドウ糖液	100mL	点滴静注	メイン	30分	○		○					
		ゲムシタピン	1000mg/m ²											
RP.3		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	全開	○		○					

<参考>軽度催吐性リスクに対応する標準的制吐療法

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
	抗がん薬投与前				
デキサメタゾン (デカドロン注射液等)	 (6.6mg)				

- 制吐療法の一般的な全体像を示したものであるが、個々の症例に応じた柔軟な対応が望まれる。
- 各薬剤の推奨用量をダイアグラム内に数値で示した。

GC療法







対象疾患	胆道癌
投与間隔	3週1コース

催吐リスク	高度(催吐性)リスク
-------	------------

○レジメン内容(※制吐薬(下記参照)等の内服薬が処方される事があります。)

番号	抗癌剤	薬品名・規格	投与量	手技	投与ルート	点滴時間・速度	投与日											
							1	2	...	8	...	21						
RP.1		ソリアセトF	500mL	点滴静注	メイン	60分	○				○							
RP.2		ソリアセトF	500mL	点滴静注	メイン	120分	○				○							
RP.3		ソルデム3A	500mL	点滴静注	メイン	60分	○				○							
RP.4		生理食塩液	100mL	点滴静注	側管	30分	○				○							
		パロノセトロン	0.75mg															
		デキサート	6.6mg															
RP.5	○	生理食塩液	500mL	点滴静注	側管	120分	○				○							
		シスプラチン	25mg/m ²															
RP.6		生理食塩液	50mL	点滴静注	側管	全開	○				○							
RP.7	○	5%ブドウ糖液	100mL	点滴静注	側管	30分	○				○							
		ゲムシタビン	1000mg/m ²															
RP.8		生理食塩液	50mL	点滴静注	側管	全開	○				○							

<参考>高度催吐性リスクに対応する標準的制吐療法

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
	抗がん薬投与前				
アプレピタント (イメドカプセル等)	125mg	80mg	80mg		
5-HT3受容体拮抗薬 (グラニセトロン塩酸塩注射等)					
デキサメタゾン (デカドロン注射液等) (デキサメタゾン錠等)	 (9.9mg)				

- 制吐療法の一般的な全体像を示したものであるが、個々の症例に応じた柔軟な対応が望まれる。
- 各薬剤の推奨用量をダイアグラム内に数値で示した。

FOLFIRINOX







対象疾患	膵癌
投与間隔	2週1コース

催吐リスク	高度(催吐性)リスク
-------	------------

○レジメン内容(※制吐薬(下記参照)等の内服薬が処方される事があります。)

番号	抗癌剤	薬品名・規格	投与量	手技	投与ルート	点滴時間・速度	投与日													
							1	2	3	4	...	14								
RP.1		5%ブドウ糖液	100mL	点滴静注	メイン	30分	○													
		パロノセトロン	0.75mg																	
		デキサート	9.9mg																	
RP.2		5%ブドウ糖液	250mL	点滴静注	メイン	120分	○													
	○	オキサリプラチン	85mg/m ²																	
RP.3		5%ブドウ糖液	250mL	点滴静注	メイン	120分	○													
	○	レボホリナート	200mg/m ²																	
RP.4		生理食塩液	250mL	点滴静注	側管	90分	○													
	○	イリノテカン	180mg/m ²				レボホリナート投与30分後に開始													
RP.5		生理食塩液	100mL	点滴静注	メイン	全開	○													
	○	フルオロウラシル	400mg/m ²																	
RP.6		生理食塩液	100mL	点滴静注		指定なし	○													
	○	フルオロウラシル	2400mg/m ²		インフューザーポンプ使用															

<参考>高度催吐性リスクに対応する標準的制吐療法

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
	抗がん薬投与前				
アプレピタント (イメドカプセル等)	125mg	80mg	80mg		
5-HT3受容体拮抗薬 (グラニセトロン塩酸塩注射等)					
デキサメタゾン (デカドロン注射液等) (デキサメタゾン錠等)	 (9.9mg)				

- 制吐療法の一般的な全体像を示したものであるが、個々の症例に応じた柔軟な対応が望まれる。
- 各薬剤の推奨用量をダイアグラム内に数値で示した。

GEM +RTx

対象疾患	膀胱癌
投与間隔	6週1コース

催吐リスク	軽度(催吐性)リスク
-------	------------

○レジメン内容(※制吐薬(下記参照)等)の内服薬が処方される事があります。

番号	抗癌剤	薬品名・規格	投与量	手技	投与ルート	点滴時間・速度	投与日							
							1	8	15	22	29	36	...	42
RP.1		グラニセトン	3mg	点滴静注	メイン	30分	○	○	○	○	○	○		
		デキサート	13.2mg											
RP.2		5%ブドウ糖液	100mL	点滴静注	メイン	30分	○	○	○	○	○	○		
	○	ゲムシタピン	250mg/m ²											
RP.3		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	全開	○	○	○	○	○	○		

<参考>軽度催吐性リスクに対応する標準的制吐療法

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
	抗がん薬投与前				
デキサメタゾン (デカドロン注射液等)	 (6.6mg)				

●制吐療法の一般的な全体像を示したものであるが、個々の症例に応じた柔軟な対応が望まれる。

●各薬剤の推奨用量をダイアグラム内に数値で示した。

Nab-PTX+GEM






対象疾患	胆道癌
投与間隔	4週1コース

催吐リスク	中等度(催吐性)リスク
-------	-------------

○レジメン内容(※制吐薬(下記参照)等の内服薬が処方される事があります。)

番号	抗癌剤	薬品名・規格	投与量	手技	投与ルート	点滴時間・速度	投与日										
							1	...	8	...	15	...	28				
RP.1		生理食塩液	100mL	点滴静注	メイン	30分	○		○		○						
		パロノセトロン	0.75mg	インラインフィルター付きルート使用不可													
		デキサート	6.6mg														
RP.2	○	生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	30分	○		○		○						
		アブラキサン	125mg/m ²	輸液ポンプ使用禁													
RP.3		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	全開	○		○		○						
RP.4		5%ブドウ糖液	100mL	点滴静注	メイン	30分	○		○		○						
	○	ゲムシタビン	1000mg/m ²														
RP.5		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	全開	○		○		○						

<参考>中等度催吐性リスクに対応する標準的制吐療法

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
	抗がん薬投与前				
5-HT3受容体拮抗薬 (グラニセトロン塩酸塩注射液等)					
デキサメタゾン (デカドロン注射液等) (デキサメタゾン錠等)	 (9.9mg)				

- 制吐療法の一般的な全体像を示したものであるが、個々の症例に応じた柔軟な対応が望まれる。
- 各薬剤の推奨用量をダイアグラム内に数値で示した。

※オキサリプラチン、イホスファミド、イリノテカン、メトトレキサートなど使用時はアプレピタント(イメンドカプセル等)の使用を考慮する。

mFOLFIRINOX







対象疾患	膵癌
投与間隔	2週1コース

催吐リスク	高度(催吐性)リスク
-------	------------

○レジメン内容(※制吐薬(下記参照)等の内服薬が処方される事があります。)

番号	抗癌剤	薬品名・規格	投与量	手技	投与ルート	点滴時間・速度	投与日													
							1	2	3	4	...	14								
RP.1		5%ブドウ糖液	100mL	点滴静注	メイン	30分	○													
		パロノセトロン	0.75mg																	
		デキサート	9.9mg																	
RP.2		5%ブドウ糖液	250mL	点滴静注	メイン	120分	○													
	○	オキサリプラチン	85mg/m ²																	
RP.3		5%ブドウ糖液	250mL	点滴静注	メイン	120分	○													
	○	レボホリナート	200mg/m ²																	
RP.4		生理食塩液	250mL	点滴静注	側管	90分	○													
	○	イリノテカン	150mg/m ²				レボホリナート投与30分後に開始													
RP.5		生理食塩液	100mL	点滴静注		指定なし	○													
	○	フルオロウラシル	2400mg/m ²		インフューザーポンプ使用															

<参考>高度催吐性リスクに対応する標準的制吐療法

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
	抗がん薬投与前				
アプレピタント (イメドカプセル等)	125mg	80mg	80mg		
5-HT3受容体拮抗薬 (グラニセトロン塩酸塩注射等)					
デキサメタゾン (デカドロン注射液等) (デキサメタゾン錠等)	 (9.9mg)				

- 制吐療法の一般的な全体像を示したものであるが、個々の症例に応じた柔軟な対応が望まれる。
- 各薬剤の推奨用量をダイアグラム内に数値で示した。

GCS療法







対象疾患	胆道癌
投与間隔	2週1コース

催吐リスク	高度(催吐性)リスク
-------	------------

○レジメン内容(※制吐薬(下記参照)等の内服薬が処方される事があります。)

番号	抗癌剤	薬品名・規格	投与量	手技	投与ルート	点滴時間・速度	投与日										
							1	2	...	7	...	14					
RP.1		ソルアセトF	500mL	点滴静注	メイン	60分	○										
RP.2		ソルアセトF	500mL	点滴静注	メイン	120分	○										
RP.3		ソルデム3A	500mL	点滴静注	メイン	60分	○										
RP.4		生理食塩液	100mL	点滴静注	側管	30分	○										
		パロノセトロン	0.75mg														
		デキサート	6.6mg														
RP.5	○	生理食塩液	500mL	点滴静注	側管	120分	○										
		シスプラチン	25mg/m ²														
RP.6		生理食塩液	50mL	点滴静注	側管	全開	○										
RP.7	○	5%ブドウ糖液	100mL	点滴静注	側管	30分	○										
		ゲムシタビン	1000mg/m ²														
RP.8		生理食塩液	50mL	点滴静注	側管	全開	○										
RP.9	○内服	エスワン		経口		1日2回	○	←	→	○	←	→					
						1.25ml未満:40mg/回、1.25~1.50ml:50mg/回、1.50ml以上:60mg/回											

<参考>高度催吐性リスクに対応する標準的制吐療法

	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
	抗がん薬投与前				
アプレピタント (イメドカプセル等)	125mg	80mg	80mg		
5-HT3受容体拮抗薬 (グラニセトロン塩酸塩注射等)					
デキサメタゾン (デカドロン注射液等) (デキサメタゾン錠等)	 (9.9mg)	 8	 8	 8	 8

- 制吐療法の一般的な全体像を示したものであるが、個々の症例に応じた柔軟な対応が望まれる。
- 各薬剤の推奨用量をダイアグラム内に数値で示した。

【術前】S-1+GEM






対象疾患	膵癌
投与間隔	3週1コース

催吐リスク	中等度(催吐性)リスク
-------	-------------

○レジメン内容(※制吐薬(下記参照)等の内服薬が処方される事があります。)

番号	抗癌剤	薬品名・規格	投与量	手技	投与ルート	点滴時間・速度	投与日							
							1	...	8	...	14	...	21	
RP.1		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	30分	○		○					
		デキサート	6.6mg											
RP.2		5%ブドウ糖液	100mL	点滴静注	メイン	30分	○		○					
	○	ゲムシタピン	1000mg/m ²											
RP.3		生理食塩液	50mL	点滴静注	メイン	全開	○		○					
内服	○内服	エスワン		経口		1日2回	○			○				
				1.25㎡未満:40mg/回、1.25~1.50㎡:50mg/回、1.50㎡以上:60mg/回										

<参考>中等度催吐性リスクに対応する標準的制吐療法

中等度催吐性リスクの注射抗がん薬に対する制吐療法					
	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
	抗がん薬投与前				
5-HT3受容体拮抗薬 (グラニセロン塩酸塩注射液等)					
デキサメタゾン (デカドロン注射液等) (デキサメタゾン錠等)	 (9.9mg)	 8	 8	 8	

●制吐療法の一般的な全体像を示したものであるが、個々の症例に応じた柔軟な対応が望まれる。

●各薬剤の推奨用量をダイアグラム内に数値で示した。

※オキサリプラチン、イホスファミド、イリノテカン、メトレキサートなど使用時はアプレピタント(イメンドカプセル等)の使用を考慮する。